

産地生産基盤パワーアップ事業
(都道府県事業評価報告書)

都道府県名 秋田県

I 産地パワーアップ計画 (収益性向上タイプ)
1 成果目標

(2) 販売額又は所得額の10%以上の増加

地域協議会名	整理番号	地区名	対象作物	取組内容	成果目標												スマート農業推進種	地域(県又は国を含む)の価格(販売単価)	補正係数	価格補正後の実績	事後評価の検証方法(※定量的な検証ができること。)	達成率(%)	地域協議会等の評価	都道府県の評価	備考								
					現状				目標				実績																				
					年度	面積 単価	生産量又は 出荷量 単価	価格(販売単価) 単価	生産コスト 単価	年度	面積 単価	生産量又は 出荷量 単価	価格(販売単価) 単価	生産コスト 単価	年度	面積 単価										生産量又は 出荷量 単価	価格(販売単価) 単価	生産コスト 単価					
大館市農業再生協議会	4	田代	露地野菜(にんにく)	露地野菜産地の形成の推進 ①集出荷貯蔵施設(乾燥・包装)の整備による生産拡大 ②高性能機械化一貫体系の導入による労働効率向上で規模拡大を目指す。	販売額の10%以上の増加 272%増加	R2	137千円/10a	6.0 ha	92,025 kg	86 円/kg	—	R6	510千円/10a	6.0 ha	25,110 kg	1,218 円/kg	—	R6	286千円/10a	8.0 ha	14,528 kg	1,576 円/kg	—	1,604 円/kg	688 円/kg	2.331	667千円/10a	取引先等との販売額を把握	142.1%	作付面積、単価、単位面積当たり販売額(価格補正後)について、目標を達成することができた。しかし、収量については、大雨により浸水したほ場が低り下したため、目標達成に差なかった。今後は大雨対策を徹底し、目標達成に向けて引き続き支援をしていく。	加入しているにんにく生産者同士の協議会にて主体的に販路開拓の取組を積極的に行っているほか、長期出荷に向けた保存方法の検討など熱心な取り組みが続いている。夏場の大雨により一部ほ場が浸水し、収量が低下したため、収量目標を達成できなかった。また、排水不良によりほ場での作業が遅れるケースも見られたことから、今後は明きよの施工やほ場レイアウトの変更により、大雨等の水害に強いほ場づくりを支援していく。	R7評価 (R6実績)	
藤里町農業再生協議会	1	矢坂上野	露地野菜(ねぎ、山うど)	露地野菜産地(ねぎ、山うど)の形成の推進 ①水稲保存の産地体質からの転換を目指し、高収益作物の作付拡大を図る。 ②高性能機械化や集出荷施設等の導入による省力・低コストによる生産の取組。 ③県内トップシェパードを育成し、山うどなどの全国ブランド化に向けた高品質・安定供給の取組を推進することにより、販売額10%以上の増加を実現する。	販売額の10%以上の増加 34.5%増加	R2	491,571円/10a	ねぎ 0 ha 山うど 0 ha	ねぎ 0 t 山うど 0 t	ねぎ 0 円/kg 山うど 0 円/kg	—	R6	661,300円/10a	ねぎ 2.5 ha 山うど 2.5 ha	ねぎ 76 t 山うど 22.5 t	ねぎ 285 円/kg 山うど 506 円/kg	—	R6	776,295円/10a	ネギ 2.5 ha 山うど 0.4 ha	ネギ 51 t 山うど 1.8 t	ネギ 408 円/kg 山うど 833 円/kg	—	ネギ 360 円/kg 山うど 656 円/kg	ネギ 430 円/kg 山うど 728 円/kg	0.837	652,387 円/10a	J A等の販売データより当該地区の販売額を把握	94.7%	矢坂ほ場整備は令和6年度に完了したが、うどの生産面積と収量については目標を達成できていない。ねぎについては、面積は目標を達成しているものの、ほ場に雑草が多く、根の活着が不安定であったため、収量の目標を達成できなかった。今後は目標達成に向け、面積拡大、品質向上、収量の増加を図っていく。	基盤整備ほ場には雑草が多いため、次年度以降、ストーンクラッシャーを用いて雑草を粉砕するなどの対策を行っていく予定である。うどの栽培については、株生数が多い、根の活着が不安定なこと、収量の目標を達成できなかったこと、ストーンクラッシャーによる雑草の粉砕に加えて、干ばつ時の散水等により根の活着を促進させる。収量の増加に繋げていきたい。	R7評価 (R6実績)	
八峰町農業再生協議会	3	八峰町	水稲	①高性能機械化一貫体系の導入による労働効率向上と作付面積拡大による大規模経営を推進する取組 ②当該地域の高品質な米生産、市場への安定供給を推進する取組により、販売額10%以上の増加を実現する。	販売額の10%以上の増加 (13.6%増)	R2	水稲 22,404千円	24.7 ha	127.4 t	176 円/kg	—	R6	水稲 25,442千円	30 ha	141.9 t	179.3 円/kg	—	R6	水稲 59,207千円	32 ha	160.1 t	369.9 円/kg	—	218 円/kg	403 円/kg	0.541	32,028千円	決算書・出荷証明書・米販売データより販売額を把握する	316.8%	直売の取引量を増大させることができたことにより、作付面積及び販売額、直販比率のすべての項目について目標を達成することができていく。今後も規模拡大を計画しており、更なる販売量増大を目指す。	作付面積及び販売額、直販比率のすべての項目について目標達成となった。	R7評価 (R6実績)	
由利本荘市地域農業再生協議会	3	下川大内上川大内	水稲	①農地の集積化により、作付面積を拡大するとともに、作業の効率化と適期作業により収量の増加を図る。 取組前(R2): 28.8ha→取組後(R5): 60.0ha ②系統出荷から直接販売への転換、拡大により販売額向上を図る。 取組前(R2): 107,379円/10a→取組後(R5): 121,233円/10a	販売額の10%以上の増加 (12.9%の増加)	R2	水稲 107,379円/10a	28.8 ha	146,190 kg	212 円/kg	18,309 千円	R6	水稲 121,233円/10a	60 ha	304,563 kg	239 円/kg	66,643 千円	R6	56,501円/10a	46 ha	192,727 kg	134 円/kg	53,662 千円	150 円/kg	137 円/kg	1.038	58,275円/10a	秋田しんせい農業協同組合及び直接販売を行う卸売業者等への出荷伝票等により、販売額を把握する。	-354.4%	田植え後から初夏にかけての水不足や7月の2度の豪雨による冠水・浸水被害(約30ha)による収量の減少に悩んでいたものの、稲の生育不良や委託者からの要請で委託農地を返還したことによる委託面積の減少のため、生産量が減少し販売額が目標に達していない。引き続き、J A等と連携し、地域内産業者との作業受託マッチングの場を設けるなどして作業委託面積の拡大と生産量増大を促しつつ、単収安定に向けた適期作業を指導する。また、新たな直接販売先の確保等による販売額拡大を図る。	水稲生育初期の水不足や7月後半の大雨・日照不足により、収量の減少に悩んでいたものの、稲の生育不良や委託者からの要請で委託農地を返還したこと、作業委託面積の減少のため、生産量が減少し販売額が目標に達していない。引き続き、J A等と連携し、地域内産業者との作業受託マッチングの場を設けるなどして作業委託面積の拡大と生産量増大を促しつつ、単収安定に向けた適期作業を指導する。また、新たな直接販売先の確保等による販売額拡大を図る。	出荷量の6割が契約取引、4割がJA出荷のため、JA出荷のみ価格補正している。	R7評価 (R6実績)
湯沢市農業再生協議会	4	湯沢市旧稲川町地区	水稲	①農地の集約化による効率化を図り、適期に肥培管理、栽培管理を行うことにより安定した収量の確保と品質の向上を図る。 ②乾燥調製施設を整備し、均一で高品質の米を安定的に生産するとともに、刈取・乾燥・調整の作業受託面積を増加させる。	販売額の10%以上の増加 (24.7%の増加)	R3	82,253円/10a	19.4 ha	97,770 kg	163.7 円/kg	—	R6	102,600円/10a	25.0 ha	142,500 kg	180 円/kg	—	R6	118,441円/10a	26.7 ha	112,140 kg	282 円/kg	—	170 円/kg	275 円/kg	0.618	73,195円/10a	こまち農協の販売データにより当該地区の販売額を把握する。	-44.5%	栽培面積は拡大しており、主食用米の需要が高まったことで高単価となり販売額は増えたものの、登熟期の高温や成熟期の倒伏の影響によって単収が伸び悩んだ。単収が伸び悩んだこと、登熟期の高温や成熟期の倒伏の影響によって、登熟歩合や千粒重の低下につながり、単収が伸び悩んだ。このため、適期播種や適正な栽培密度の確保、ケイ酸資材の施用による気象変化に強いとづく、高温下での水管理など適切な栽培管理に努め、収量確保及び品質向上により販売額の拡大を図るよう指導する。	栽培面積は順調に増加し、目標を達成している。登熟期の高温や、成熟期の倒伏の影響によって、登熟歩合や千粒重の低下につながり、単収が伸び悩んだ。このため、適期播種や適正な栽培密度の確保、ケイ酸資材の施用による気象変化に強いとづく、高温下での水管理など適切な栽培管理に努め、収量確保及び品質向上により販売額の拡大を図るよう指導していく。	R7評価 (R6実績)	
湯沢市農業再生協議会	4	湯沢市旧稲川町地区	大豆	①農地の集約化による効率化を図り、適期に肥培管理、栽培管理を行うことにより安定した収量の確保と品質の向上を図る。 ②乾燥調製施設を整備し、均一で高品質の大豆を安定的に生産するとともに、乾燥調整の作業受託面積を増加させる。	販売額の10%以上の増加 (30.8%の増加)	R3	19,560円/10a	54.7 ha	72,000 kg	148.7 円/kg	—	R6	25,600円/10a	67.0 ha	107,200 kg	160 円/kg	—	R6	8,102円/10a	67.7 ha	54,390 kg	101 円/kg	—	150 円/kg	130 円/kg	1.154	9,363円/10a	こまち農協の販売データにより当該地区の販売額を把握する。	-168.8%	前年と比べ栽培面積は拡大傾向にあり、目標の面積に到達しているものの、開花期以降の高温少雨の影響で、生育不良による収量低下、天候不順により、単収の減少や品質の低下が見られることから、こまち農業協同組合を中心とし、排水対策の実施や適切な地下水位の保持などの栽培管理による安定した収量と品質の向上を図るよう指導する。	栽培面積は目標を達成したものの、開花期以降の高温少雨の影響で、生育不良による収量低下、天候不順により、単収の減少や品質の低下が見られることから、こまち農業協同組合を中心とし、排水対策の実施や適切な地下水位の保持などの栽培管理による安定した収量と品質の向上を図るよう指導していく。	R7評価 (R6実績)	